

「ベトナム国家大学ハノイ校サマースクール参加報告書」

京都大学文学部4年 (許 蔚欣)

東南アジアの派遣プログラムに参加すること自体は初めてではないが、今回もベトナム国家大学ハノイ校サマースクールに参加することで視野を広げることができた。2週間の派遣プログラムの中、1週目は外国語学部で、2週目は人文社会科学学部で過ごし、様々な背景を持つ学生と交流することができた。また、京大生のためのベトナム語講座は数回のみで、派遣のほとんどの時間はベトナム人学生の授業に参加していた。

日本語初心者から上級者まで、多くの様々なレベルの授業に参加させていただいた。日本語通訳、日本語会話、日本語の仕組み、日本文化などの授業に参加し、ベトナム人学生がとても明るく積極的に私たちと交流しようとする姿勢が印象的であった。日本語上級者もいれば初心者もいるけれど、ベトナム人学生たちは学んだ日本語を頑張って活用し、コミュニケーションをとろうとしてくれた。そして初対面にもかかわらず、明るく接してくれたおかげで、私たちも心を開いて楽しい交流を果たした。

また、授業参加を通じてベトナム人学生の勉強に対する熱意が伝わった。ベトナムの大学では、朝7時から授業が始まるのは一般的で、朝7時から午後5時まで授業を受ける大学生も少なくない。ベトナム人学生から授業の時間割を聞き、私は絶対朝早く起きられなく耐えられないと思った。とくに、外国語学部では空調が整備されていないため、毎日蒸し暑い教室で7時間以上勉強していることになり、私はその集中力に感心した。

授業以外の時間にハノイを満喫することができた。ハノイの旧市街の散策やアオザイ体験など、多様な体験ができた。ベトナム料理において、優しい味のフォーから好き嫌いが分かれる料理まで様々な料理を堪能でき、お腹を壊さず楽しい食事ができた。一方、交通の面において、公共交通手段がそれほど発達されておらず、ベトナム人のほとんどはバイク移動で、大学生たちもバイクで通学していることが珍しく感じた。しかし、道路の上を走るバイクや車が多くて、そして信号自体も少ないため、道を渡ることが難しかった。車やバイクのスピードも早く、道を渡ることが今回の派遣プログラムの中の一番の怖い経験かもしれない。

最後に、ベトナム人の学生サポーターが毎日ホテル迎えに来てくれ、そして毎日違うベトナム料理屋に連れて行ってくれたことに感謝している。私たちの要望に頑張って答えてくれたサポーターの皆さんのおかげで、最高に楽しい2週間が過ごせた。2週間を一緒に過ごし、友情が深まり、お別れがづらくなかったが、「また日本で会おう」と約束し、ベトナムを離れてもハノイでの思い出は消えないと信じている。